

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900110		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームエフビー木綿の郷		
所在地	栃木県真岡市下高間木1-7-1		
自己評価作成日	平成30年3月8日	評価結果市町村受理日	平成30年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成30年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歩いて行ける距離にショッピングモールや病院、飲食店などもありとても便利な場所でありながら住宅街の中に立地しているため静かな環境でゆったりとすごしていただけます。南側にはテラスがあり菜園では季節の花や野菜を育て観賞したり収穫した野菜をお料理にして皆で味わったりして楽しんでいます。年に一度の夏祭りでは家族様にも参加していただきボランティアの方の協力もいただき交流を深めております。清潔で快適な環境で生活していただけるよう環境整備に力を入れています。その人らしさを大切にして個別ケアを中心としたケアと自己決定と自立支援を心掛け、利用者様が安心して笑顔で過ごしていけるようスタッフはいつも変わらぬ穏やかな対応をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「24時間365日、すべては利用者様のため」を中心とした経営方針のもと、「その人らしさを大切に、私たちに何できるか」を事業所の運営方針とし、一人ひとりの生活歴を念頭に、個別ケア、自己決定と自立支援を心がけ、今までの生活のリズムを変えない生活などのサービスを提供している。自分でできることはなるべく自分でしてもらうように排泄支援したり、好みに応じて午前または午後の時間に入浴できるなどの支援をしている。地域行事への参加、事業所の夏祭りに地域のボランティアや近隣の人が参加するなど、運営推進会議の地域代表を通して地域との関係が徐々に築かれている。立地条件も良く、新興住宅街に事業所があるので近くには郊外型の大型店舗が歩いて行ける距離に立ち並んでおり、外出可能な利用者が希望により数人で買い物や飲食に出かけている。事業所には「看取り介護の指針」があり、開所早々に医療機関と事業所、家族が協力して2名の看取りを行っており、特別な医療行為が必要な場合を除いては、本人や家族の希望があれば、看取りを実施する体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを大切に、私たちに何ができるか。を常に考え利用者様が安心して穏やかに過ごしていただけるお手伝いをさせていただきたいと考えています。	「24時間365日、すべては利用者様のため」を中心とした会社の経営方針があり、職員一人ひとりに手帳の大きさの「経営方針書」が渡されている。管理者は職員会議や朝礼等で経営方針に添って取り組むべきことがらを職員に伝えている。また、事業所開設時に職員で話し合い、「その人らしさを大切に、私たちに何ができるか」などを事業所の運営方針としている。一人ひとりの生活歴を念頭に、個別ケア、自己決定と自立支援を心がけ、今までの生活のリズムを変えない生活などのサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、夏祭りや小学校の運動会等見学や参加させていただいている。地域のボランティアの受け入れや、買い物レクや外食レク等で地域の方々と関わりを持てるよう心掛けている。	地域自治会の夏祭りや、近所の小学校の運動会に参加している。運動会では、テントを用意してくれ、借り物競走にも参加できた。事業所の夏祭りでは、和太鼓やよさこい踊りのボランティアが来てくれ、事前にチラシを配ったことや屋外開催で太鼓の音を聞いて来た人もいて、家族をはじめ地域の人にも多数参加してもらえた。買い物や外食など外出の際には地域の人と関わるようにして、事業所や利用者を知ってもらうようにしている。開設1年目ではあるが、地域とのつながりが徐々に築かれている。	地域との関係が徐々に築かれているが、災害時の協力、幼稚園児や小学生など子どもたちが訪問に来るような関係に発展していくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者家族の会への参加と、民生員の方の自施設見学会等で認知症の方への理解についてお話させてもらったり、相談会などもさせていただく事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。地域の方の意見や家族様の希望など得た情報は今後に活かすよう取り組んでいる。	利用者・家族や区長、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーで、2ヶ月毎に開催している。会議は参加者がやや少ない状況であるが、開催時間を午後から午前中に変えて家族の参加を増やすなど会議を活発にする努力をしている。会議を通して、町会長の紹介で、地域行事や小学校の運動会に参加するなど地域とのつながりを持てるようになった。	会議メンバーなどの事情で運営推進会議への参加者が少ない状況である。今後、開催日時や内容などを工夫し、より活発な会議となることを希望する。

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	可能な限り協力体制を整えています。確認が必要なことは随時連絡をし回答していただいています。	市の担当課や地域包括支援センターなどの要請や紹介で、介護相談員の研修や認知症家族の研修を受け入れたり、社会福祉協議会の認知症勉強会へスタッフを講師として派遣したりしている。事業所開設からまだ1年に満たないが、市及び関係機関とは緊密に連携し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実際に行っておらず玄関の施錠もしていません。転倒のリスクがある方にも自由に行動できる中で見守りの強化に努めている。	身体拘束についての研修を開設前に行っており、これまで身体拘束の事例はない。グループホーム内の廊下を歩き回る利用者が一時いたが、見守りや気を紛らわすためにお茶に誘うなどして玄関を施錠せずに対応している。転倒のリスクがある利用者には、立とうとするのを押しとどめるのではなく、立つことをサポートするなど、できるだけ抑制しないで動きたいように動けるようにしている。時としてつい「待って」と言ってしまうこともあるが、管理者等は言葉による抑制に関しても随時注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるかを理解できるよう勉強会を行っている。言葉遣いなどにも気を付けるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の立場、職員の立場両方の視点から権利擁護とはどのようなものかを、まずは職員が理解し学ぶ機会が必要であると考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の質問には納得していただけるまで説明させていただきます。本人様家族様の意向なども聞かせていただき納得の上で契約させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の設置と家族様面会時には意見や要望等、利用者様の現況をお伝えする中でお伺いできるよう心がけています。運営推進会議でも家族様の意見を聞き今後役に立てよう努めています。	家が心配になって帰りたいという利用者の要望に対し、手の空いた職員が家に一緒に行ったりするなど、可能な限り要望等に答えるようにしている。家族からは、面会や通院介助で事業所に来た時などに、利用者の状況を話し、意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議などで、出席した家族から利用者の入居後の変化などを聞くこともあり、これらの意見や要望を運営に反映させるようにしている。	

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや朝礼などでスタッフから出た意見や提案はその都度検討、対応に努めるよう心かけている。	全体会議や担当者会議、朝礼などで職員の意見を聞くことが多く、運営や介護計画などに反映させている。冬期室内の湿度が上がらないので加湿器を追加購入したり、入浴予定の利用者の名前やリネン交換の部屋などを書いたホワイトボードを設けて情報共有ができるようにするなど、職員からの提案を実現した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得に関しては可能な限り協力を努めている。人事考課制度の導入で定期的に自己評価と上司評価があること、目標を明確にして達成できるよう目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修ともに情報の収集をして参加可能であれば積極的に参加するように促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携研修会などの参加と職員への参加の促しを行っている。今後交流の機会を設けていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行い本人様にお会いし情報の収集に努めています。好きなことできること昔の話や家族様について様々な会話の中でその方への理解を深められるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、利用者様の入居に対して不安のない方はいないと感じます。できる限り安心していただけるよう納得していただけるよう対応方法等お話をさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くのディスカッションを重ねて本人様ご家族様の思いに寄り添えるようにできないことを把握しサービス提供に取り組んでいる		

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を大切に尊重する中でも利用者様とスタッフが共同生活を通じて信頼関係を築いていけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様には良い距離感を保ちながら利用者様を尊重し家族様と共に支えあえるよう日頃より利用者様の日常の報告ができるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出への要望を適宜聞き取り可能な限り同行している。面会者の制限もなく友人や近隣の方々が気兼ねなく訪問できるよう配慮している。	利用者の家に帰りたいとの要望に対し、可能な限りそれに答えるようにしている。入居前から仲の良かった友だちが迎えに来て夕食に出かける利用者もいて、薬など必要なものを持たせて送り出している。家族からは、子連れでも大丈夫か、夜訪問しても良いかなどの問い合わせもあるが、特に制限することもなくいつでも気軽に訪問できるよう配慮するなど、親しい人との関係が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良い関係を築けるよう職員が懸け橋となり話題の提供や孤立感を与えない家庭的な環境を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された本人様が変わらず生活されているか電話や来所時に会話を多くとるように心掛けている。家族様の精神的フォローなど相談できるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がどのような生活が快適と感じるか楽しい時間を取り入れることができるかを考え、個性を大切に支援をしている。	日常の会話の中で、その人の興味や好きなこと、さらには体調の変化などを読み取るようにしている。コミュニケーションが取れない人でも、目を見て話しかけると笑ってくれたり手を握り返したりしてくれるので、何の訴えなのか推測して対応している。表情がいつもと違うなどの変化も見逃さないようにしている。利用者の思いや気付いたことは「気持ちノート(申し送りノート)」などに書き職員間で情報を共有するようにしている。	

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人様からお話を伺い、また介護支援専門員からの情報の収集、面会に来られた親戚や友人からも生活歴についての情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況などを申し送りや報告書連絡ノートを活用し利用者様の状態の変化について職員間情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやミーティングを実施し個別ケアの見直しや多職種との連携、ご家族様の要望等もくみ取り介護計画に活かせるよう努めている	計画作成担当者は、本人や家族の要望を聞き取り、介護職や看護師、管理者等と話し合いを行い、現場の「気付きノートなど」も参考にして原案を作成し、家族に確認をして介護計画を作成している。モニタリングは、計画作成担当者が、基本的には3ヶ月毎に実施し、状況によって1ヶ月毎や随時実施している。入居時にはオムツだった利用者が、介護計画にトイレでの排泄を目標にして支援した結果、トイレで排泄できるようになった事例もある。	介護計画の中に、本人や家族の要望等を聞き取り、その人らしさやその人らしい暮らしを取り戻せるような目標を加えることを希望する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の温度板や排泄、水分チェック表を活用しケアの実践として残しておくことで生活状況の把握と、日々の経過記録にじょうほうを残すことで介護計画へ反映できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるよう利用者様家族様へ耳を傾け可能な限り対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域広報誌や民生員の方の情報を元にインフォーマルサービスを利用することで地域に根づいた支援を目指している。		

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医がある方には変更せずに継続して受診していただいている。緊急時以外の通院に関してはご家族様と本人様の関わりを大切にする意味でも家族様対応とさせていただいている	かかりつけ医は入居前の医師を継続しており、通院介助は基本的には家族対応となっている。受診に際しては、事業所での利用者の状況を口頭で家族に知らせるか、看護師が医師へのメモを書いて家族に渡している。受診結果は家族から聞き取り、薬の変更など伝達事項があれば気付きノートに記載して情報の共有を行っている。看護師は各利用者の薬を管理し、誤薬が起こらない方法を工夫して、介護職員が利用者に服用させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図りながら利用者様に対する適切な対応情報共有を毎週実施している。当事業所において看護師を配置しており訪問看護以外でも適切な受診等を家族様に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医への連絡、面会などを通じて現状の早期把握に努め退院後の受け入れの体制づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より看取り介護指針にて体制の説明と同意を得ている。見取りとなった場合には本人様家族様の同意のもと多職種との連携を図りながら対応している。	事業所には「看取り介護の指針」があり、入居の際に説明して利用者と家族の意向を確認している。事業所としては、特別な医療行為が必要な場合を除いては、本人や家族の希望があれば、看取りを実施する考えである。開所早々に、訪問診療医や訪問看護師、事業所の看護師、介護職員、家族等の連携のもと、2名の看取りを行っている。看取り後に訪問診療医によるデスカンファレンスを実施し、また、看取りについての内部研修を行っている。医師からは、「良い看取り介護ができた」との賛辞があり、職員のモチベーションアップにつながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、再発防止及び緊急時の対応として内部研修の実施をしている。また管轄の消防署や警備会社より緊急時対応におけるくんれんを定期的に行っている。		

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、年2回訓練を実施、日中夜間を想定して対応できるよう利用者様を交えて避難する方法を身につける体制を整えている。	4月に開所してこれまでに、消防署立ち会いによる日中想定と夜間想定消防避難訓練を実施している。実施後、消防署からは、建物内のスプリンクラーが作動するとの前提で、利用者の避難の新しい考え方について助言を受け、今後の避難訓練の検討課題としている。災害に備えた備蓄品については用意できていない。	火災や災害時には、近隣住民との協力関係が必要となるため、普段から事業所を知ってもらい、足を運んでもらえる関係づくりをめざして、運営推進会議等で話し合うことが期待される。また、備蓄品等についても東日本大震災の経験等を調査するなどして、必要品を検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気大切に、丁寧語で声かけ会話することを心掛けており倫理、法令遵守、プライバシー保護の内部研修を実施しているが、改善が必要な場面もあり、今後の課題である。	利用者や家族に対する接遇向上については、経営理念にも挙げられているとおり、力を入れているところであり、内部研修や本社研修が行われている。トイレ誘導の際の声かけや普段の言葉遣いにも気を配っているが、職員の利用者に対する言葉かけが、親しさのあまり友達言葉になっていることが散見され、課題となっている。男性職員の入浴介助を嫌う女性には、羞恥心に配慮して同性介助の対応をしている。	言葉遣いについては常に気を付けなければならず、今後とも研修や普段の振り返りに取り組んでいただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の日常生活の場面ごとに、思いや希望をくみ取れるよう親切丁寧な対応に心がけ、自己決定できるよう、落ち着いた声のかけ方など工夫するよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様本位の視点で対応できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には、ご自分で洋服を選んでいたたり、髭が伸びていたり寝癖があつたりしたらさりげなく声かけ行っている。服が汚れた際は着替えていただけるよう支援している。		

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で食事についての会話を取り入れたり、食べたいものをメニューに取り入れたりしています。食事の準備もお手伝いして下さる利用者様がいてスタッフと会話を楽しみながら調理片付けを行っています。	職員による食事委員会のメンバーが、利用者や職員の好みを踏まえて1、2週間まとめてメニューをつくっている。食材の調達や調理は職員が交代で行っているが、食材の買い物が職員の負担になっているとして、配達してもらえる業者を探しているところである。調理や片付けができる利用者には手伝ってもらっている。手作り行事食や外食の楽しみもあるが、花見の際には「お花見はお重よね」ということで、手作り弁当をお重に詰めて現地できりわけて食べ、昔ながらのお花見を楽しんだりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は利用者様の状態に合わせて提供しています。毎食後の食事量のチェック、必要な方は水分量のチェックも行っています。ご自分での摂取が困難な方には声かけや介助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行っていただける方への声かけ、毎食後の口腔ケアを進めている。介助が必要な方へも自立支援の視点より、まずは自身で行っていただく働きかけをした後、必要に応じて職員が対応するよう取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄リズムを把握し、個別の能力や希望を踏まえトイレ使用やポータブルトイレ使用などの介助、声掛けなどを行い安易なオムツの使用による尿臭、便臭の減退させないよう支援したい。また排泄を失敗された場所であってもさりげなく交換を行い羞恥心の配慮に心がけている。	自分でできることはなるべく自分でしてもらおうようにするとの方針から、排泄の自立に向けた支援にも取り組んでいる。病院から退院後はオムツやパッド使用であっても、尿意の訴えを聞き漏らさず、段階を踏んでトイレで用が足せるようにした事例があり、個別の状況に合わせた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を献立に取り入れ提供できるようにしている。また、水分をしっかり摂れるようにしており、腹部マッサージや体操等も取り入れてる。		

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を取り入れた入浴スケジュール表を作成し活用している。入浴をされたくない方へは、気分や体調に合わせて時間帯、曜日を変更して対応することや、季節ごとに替わり湯としてハーブやゆず湯などを楽しんでいただいている。	入浴は週2回を基本とし、利用者の好みにより、午前と午後に分けて支援している。浴室には瞬間に暖まる暖房機を備えていて、寒くないようにしている。浴槽は家庭的な個浴槽であるが、一方のユニットには三方介助ができるタイプを設置して身体が不自由な利用者が2名介助で入浴できるようにしている。事業所では対応できない場合は訪問入浴の利用も視野に入れている。入浴を嫌う利用者もいるが、服を脱いだりする行為が面倒に思うだけであるとして、誘い方や誘う職員、時間帯を変えて入浴したくなるように誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動と静養のバランスを考えた対応を職員間で申し送り支援している。また夜間睡眠しやすい環境として照明の明るさや室温使い慣れた寝具など創意工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、セットミスしないように配薬マニュアルチェックシートを活用し、トリプルチェックを実施。処方薬内容は、職員間で薬事情報を共有し理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合わせた楽しみ、日課を阻害することのないようタバコなど、火災への配慮をし提供している。掃除や料理、俳句など、職員も興味を持ち共感しあえる支援を目指している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出する機会を設けて希望に沿った支援を心掛けている。またご家族様との関係性を大切に家族様と外出、外泊が楽しめるよう支援していきたい。	事業所は新興住宅街に位置し、歩いて行ける距離にはいろいろな店のあるモール街やレストラン、喫茶店が建ち並ぶ大通りがある。外出が可能ならば利用者の希望に応じて、教人で買い物に出かけたり、ラーメンや寿司を食べに行ったりしている。またすぐ近くの川沿いにしだれ桜並木の舗道が整備されており、自動車の通行もなく、安全に散歩ができる環境がある。家族とともに外出する利用者もあり、馴染みの美容室でパーマをかけてくることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様に自己管理能力に応じた金銭管理を十分に気を配りお任せしている方もいる。家族様の承諾をいただいた上で、しっかりと配慮していきたい。		

エフビー木綿の郷(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用している方はもちろん、家族様に連絡を取りたいと仰る利用者様にはその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目と白を基調とし全体的に温かい落ち着いた雰囲気です。廊下や玄関には絵画を飾り、アクセントになっています。ホールから見える菜園には季節の花が咲いており、利用者様もそれを眺めて楽しんでいます。	玄関や廊下には額装した絵画が飾られており、開所の際に寄贈された多くの観葉植物が置かれていて、事業所全体が落ち着いた雰囲気に包まれている。食堂ホールは両ユニットの間の扉を開け放して広く使用し、職員が互いのユニットの状況を把握しやすいようにしている。食堂ホールの南側にテラスが設けられており、その前に10坪ほどの花壇兼菜園があり、季節ごとに花や野菜を育てている。室内が乾燥しがちのため教台の加湿器を設置して、なるべく40～50%の湿度を保つように調整して、インフルエンザ等の予防に努めている。利用者は日中はこの食堂に集まる事が多く、新聞を読んだり塗り絵をしたり、それぞれ思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で会話が楽しめるように席の配置を検討し決めている。畳のスペースは座るのに丁度良い高さになっているため一休みするのに利用していたり、洗濯物をたたむのに使ったり、お昼寝で利用したりと様々な場面で使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れたもの、愛用していた自宅で使用していたものなどを持ち込んでいただき、利用者様が落ち着いて過ごせるように環境を家族様の協力いただきながら自由にお使いいただいています。	居室の入り口には入居者の名前などを表示するためのプレートがあるが、職員手作りの「結」や「希」などの漢字一文字の美しい表示が名前に替えて掲げられており、入居者が自分の部屋と認識できるよう工夫されている。認識が困難な場合には、本人の写真や名前をレイアウトした掲示となっている。室内にはエアコン、洗面台、電動ベッドとロッカーが備え付けられている。利用者によっては、自宅で使っていた箆箆や仏壇、椅子などを持ち込んで自分らしい部屋に設えている。	入居間もない利用者や男性利用者の部屋は、殺風景になりがちなので、状況に合わせて家族の協力を得てその人らしい部屋づくりを支援してほしい。一部の家族からは床掃除について回数を増やしたり、丁寧に掃除してほしい旨の要望が出ているため、各所の掃除について点検してほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、各所には手すりを設置してあります。ドアは全て引き戸になっているため力のない方でも開閉がスムーズにできるようになっています。		